

2014 連合北方領土返還要求集会

全国から1,300名が返還を求め結集！

～連合福島派遣団として12名が参加～



四島のかげ橋の前にて、連合福島派遣団12名の皆さん
例年のない青空でスッキリと晴れ、目の前に歯舞群島を望むことができた。

集会では、主催者を代表して古賀申明連合会長は「旧ソビエトによって北方4島が不法に占拠されてから69年が経過した。来年はいよいよ終戦70周年をむかえる。元島民の皆さんの故郷に帰りたいたいという強い思いに応えるために、私たちに何が出来るのか、また、何をすべきなのか一人一人が改めて考え行動して行かなければならない。」と挨拶した。

9月15日の2日目は「北方領土返還を求める連合シンポジウム」が開催され、基調講演では、元色丹島島



シンポジウムで熱心に傾聴する派遣団の皆さん

連合は、9月14日～15日にかけて北海道の根室の地において「2014 連合北方領土返還要求集会」を開催した。今回の連合福島の派遣団には各構成組織及び各地区連合から参加協力を頂き、石川地区連合・渡辺副議長（電機連合）を団長に、12名での参加をもって役割を果たしてきた。

9月14日の1日目は、納沙布岬・望郷の岬公園で「2014 平和ノサップ集会」を開催し、全国から約1,300名が結集した。納沙布岬は



民の得能宏氏

基調講演をする元色丹島民の得能宏氏が「北方領土は私たちから見ると故郷にしか過ぎないが、我が国の固有の領土である。そのことを忘れずに、是非全国で、北方領土返還に向けた取組みを進めて頂きたい。」と訴えた。

集会参加者は、4島の返還と日ロの平和条約が締結されるまで、平和を希求する労働組合の立場で運動を続け、世論を喚起して行く必要性を改めて感じながら、身近な職場や地域で、総ての参加者がこの歴史問題を、語り部となって伝えて行くこと確認して帰路に着いた。